

年間第 14 主日 (ルカ 10:1-12,17-20)

出来ないことに挑戦して神の国の収穫を得る



土曜日の朝は夢見の悪い朝でした。よく考えると本当は悪くなかったのかもしれませんが。全く面識のない人が近づいてきて私にこう言うのです。「あなたのしていることは出来ることばかりです。すでに知っていること、経験してうまくいったこと、それらをし続けているだけです。それで神様のお役に立っているでしょうか。弱さの中に働く神の力を必要としない仕事は、神様が求めている働きでしょうか？」

初対面でキツイことを言うなあと思ったのですが、言われていることはごもっともと言うしかありません。その人は最後にこう言って去って行きました。「何かに挑戦しようという気は無いのですか？」ここで目が覚めて、聖家族修道院のミサを終え、朝食を済ませて説教に取りかかり始めます。朗読箇所は七十二人を派遣する場面です。

まずここで、一つ目の「挑戦」があると考えました。「七十二人」です。どれくらいの集まりの中で「七十二人」を任命されたのでしょうか。自治体で、災害の起こった地域に災害援助隊を送ることがあります。七十二人を任命することのできる自治体の規模はどれくらいでしょうか。それを頭に置いて、福江教会で「主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた」(10・1)という行動は可能なのでしょうか。

「挑戦」は、「できることをする」という意味ではないと思います。「できない」と思われているからこそ「挑戦」ではないのでしょうか。福江教会で「七十二人」が思い当たることがあります。それはミサの参加人数です。前晩のミサ、日曜日一番ミサ二番ミサの合計は、二百五十人から三百人くらいでしょうか。

イエス様の行動を読み返すと、「主はほかに七十二人を任命した」とあります。福江教会が主日のミサ全体で、ほかに七十二人きてもらって使命を授けてもらい、生活の中に二人、三人の組にして派遣できないものでしょうか。福江教会にミサに参加できる信徒の実数を考えると、「できない」とは言えないと思います。主日のミサに参加して、みことばと聖体を味わい、それぞれが、何か使命を感じて生活に戻っていく。私たちの教会にとっての「七十二人」は、こんなところにあるのでしょうか。

「何かに挑戦しようという気は無いのですか？」この夢のお告げで二つ考えました。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に関心ください。」(10・2)これから、ほかに七十二人、福江教会のミサに参加してくれる人を願ひましょう。ミサの中で、惹きつけるものに違いがあるとしたらそれは説教ですから、毎週汗を流して準備したいと思います。

もう一つは、浜脇小教区と福江小教区の統合です。信徒総会で触れましたが、二ヶ月に一回協議を詰めて、六回の協議の後に来年度から統

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

合できればと思っています。これはおそらく、下五島地区の最初の挑戦となり、次の下五島地区の挑戦のモデルとなり、ひいては長崎教区の統合を進めるきっかけとなるはずです。

「長崎教区のごことは都会が決めるのであって離島から変えることは出来ない」そう思っているかもしれません。私は下五島地区や上五島地区から提案して、長崎教区が変わるだけの発信は出来ると思っています。

どうか、「ほかに七十二人」を主が与えてくださるよう、熱心に祈り求めましょう。「収穫は多い」と、主が約束してくださっています。その状況は、今も、これからも変わらないのですから。

年間第 15 主日(ルカ 10:25-37)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。